

登山・登攀の記録

北アルプス 黒部丸山東壁正面壁登研第1ルート～源治郎 I 峰平蔵谷側下部中谷ルート～劔岳

日時:1991年12月24日～1992年1月4日

メンバー:伊藤達夫(コーチ)、鶴飼一博

概要:丸山東壁から劔まで行くことを目標に計画した。ただ別山尾根をたどるだけでは物足りないので、源治郎 I 峰の平蔵谷側をルートに加えた。秋から長いルートを登り込んだ上に、フォローはユマーリング、ツェルトに換えてテントを使用することにし、山行システムを一新したこともあり、自信はあった。天候の長期予測まで行く念の入れようだった。結果は、平蔵谷側上部は割愛してしまったが、ほぼ成功と言ってよかった。この時点では、同様のプランが今後の黒部・劔での冬期登攀の目標になるのではないかと予想したが、未だに成し得たパーティーはない。

記録

12月21日 晴

アルペンラインゲート(5:30)－黒部ダム(8:40/9:30)－左岩稜基部(12:15)－フィックス工作終了(15:05)

積雪が少なく、ダムからほとんど夏道沿いに歩き、楽に壁の基部まで行くことができた。アプローチが容易だった分、下部岩壁の緩傾斜の部分は期待していたほど雪に埋まっていなかった。

テントを張る前にルート工作に出かけ、3ピッチ登ってロープを固定した。暗くなると思いヘッドランプを装着して出かけたが、簡単に仕事が済んでしまった。



登研第1ルートの3ピッチ目

12月22日 晴

登攀開始(5:25)－中央バンド(13:30)

早起きしてヘッドランプをつけて出発した。食糧・燃料を満載したザックはとても重く、いきなりのユマーリングは辛かった。通算7ピッチ目で中央バンドの雪壁に出る。夏のビレーポイントを通り過ぎ上部壁の取付まで強引に伸ばした。

時間は早かったが休養することを優先し、上部壁にフィックスするのは止めてテントを張って早めに寝た。



中央バンドのテントサイト

12月23日 晴のち雨

登攀開始(5:55)－緑ルート夏の終了点(13:40)

－尾根上(16:30)－「岩峰」テントサイト(17:10)

この日もヘッドランプをつけて登攀を開始する。8ピッチ目は乾いた垂壁を簡単に登り、9ピッチ目でハンクのずれたところの垂壁を斜めに登ること

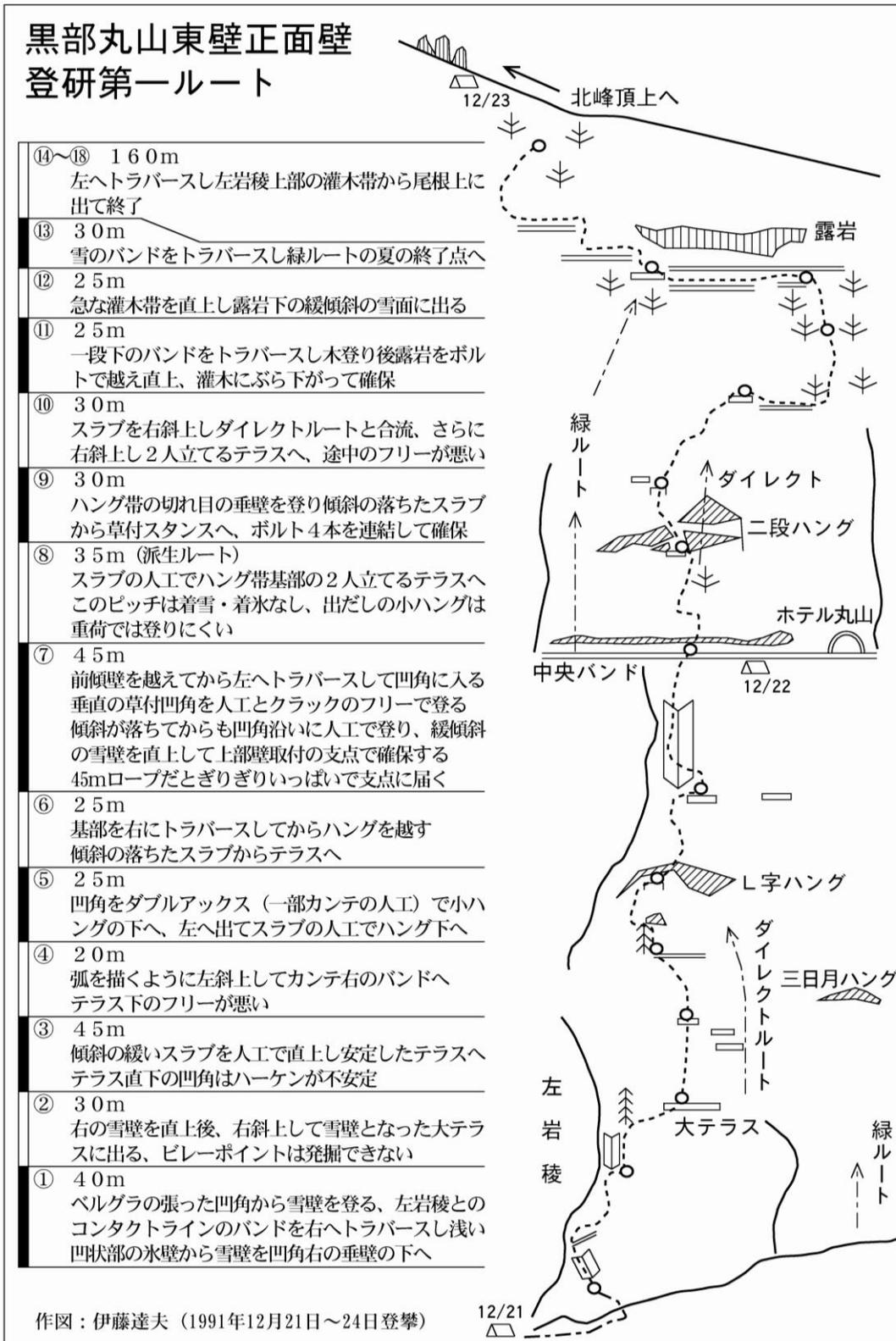


大ハンク帯での荷上げ

登山・登攀の記録

によって大ハング帯を越える。11 ピッチ目から上部灌木帯。12 ピッチ目は夏と異なるラインを取って緩傾斜帯に出た。ここからトップもザックを担ぎ、通算 18 ピッチで丸山北峰に続く尾根上に出た。

ヘッドランプをつけてさらに頑張り、「岩峰」の手前でテントを張った。雨が強くなり、テントの浸水に悩まされた。雨が降ることを想定していなくて、フライシートを持たなかったのは大失敗だった。



登山・登攀の記録

12月24日 曇のち雪

出発(9:00)－丸山北峰(10:05/45)－主峰(12:00)－御前谷乗越(12:55)

古いトレースがあり、北峰、主峰と順調に越え、御前谷乗越まで行くが急に軟弱になり行動を打ち切る。湿った雪が降り続き前夜以上にテントの浸水に悩まされた。

12月25日 雪

御前谷乗越(8:15)－内蔵助乗越(10:55)－2430[㍉](12:45)

内蔵助峰の登りから深いラッセルになる。尾根が急になる手前で早めにテントを張り、コンロを焚いて濡れものをひたすら乾かす。

12月26日 晴のち雪

出発(7:20)－分岐点ピーク(10:50)－縦走路(12:15)－別山乗越(14:05)

一時的な天候回復で、朝には白馬岳が見えた。縦走路に出て、真砂岳で県警と交信。強風とホワイトアウトの中を別山乗越まで頑張って、5日分の食糧と燃料のデポを無事回収しテントを張る。

12月27日 雪 <停滞>

朝の高層天気図で、寒気は南下してきたがまだ1日は大丈夫と判断して、出発準備をしていたが、その後のニュースで二つ玉低気圧の発生が予報されていたので、急きょ停滞と決めた。

12月28日 雪 <停滞>

高層天気図を書くといよいよ寒気が迫ってきて強い冬型になりそうということがわかった。富山県には暴風警報が出た。

12月29日 雪 <停滞>

とても動ける状態ではなく停滞を続ける。

12月30日 雪 <停滞>

高層天気図を取ると寒気はまだ抜け切っていなかったので、本日も停滞と決定する。

12月31日 晴

別山乗越(7:10)－平蔵谷出合(8:45/9:30)－中谷ルート登攀開始(10:10)－フィックス工作終了(17:10)－平蔵谷出合(17:20)

ようやく晴れた。剣沢に一直線にトレースをつける。平蔵谷の出合に荷物をデポし、登攀装備だけを

持ってフィックス工作に行く。中谷ルートだけでなく壁自体が初見で、氷雪に覆われていることもあり、ルートファインディングに苦労する。4ピッチ登って手持ちのすべてのロープを固定して下降する。

1月1日 雪

平蔵谷出合(7:50)－登攀開始(8:15)－7ピッチ目終了(19:10)－テントサイト(20:50)

朝から降雪が始まったがもう行くしかない。5ピッチ目の大岩溝は激しいスノーシャワーと雪の吹き上げの連続攻撃に目も開けていられないほどの状態で苦闘する。6ピッチ目からはルートが判然とせず、何もない壁にルートを拓いて登った部分もあった。7ピッチ目で岩壁を抜け雪稜に達する。さらに2ピッチで広い尾根に出てテントを張る。



中谷ルート4ピッチ目をフォローする鞆飼

1月2日 雪

出発(12:30)－ジャンクションのコル(13:50)－源治郎尾根I峰(16:00)

予定していた上部壁名古屋大ルートを諦めて、そのまま源治郎尾根を登りI峰のピークにテントを張る。コルには先行の東京志岳会がいた。

1月3日 雪のち曇

源治郎尾根I峰(8:20)－II峰懸垂下降終了(10:30)－本峰(13:30/50)－2600[㍉](16:50)

先行パーティーと合流し本峰まで行く。早月尾根は我々が先に下り、2600[㍉]まで頑張る。

1月4日 雪

2600[㍉](8:10)－早月小屋(8:45/9:00)－1600[㍉](10:00)－馬場島(11:40/13:30)－伊折(15:40)

早月尾根一気に下り、馬場島荘でカツ丼を食べたあと伊折まで歩く。(記／伊藤)

登山・登攀の記録
